

社会教育研究部門

「教育と公共」研究部会（第46回）

日時：2023年4月28日（金）13：30～15：30

場所：オンライン

出席：上野正道・浅井幸子・狩野浩二・田嶋一・仲田康一・藤井佳世 各兼任研究員
山口和人所長・鈴木悦子・金沢千秋・川上智子（野間教育研究所事務局）

内容：（1）田嶋研究員

1. 京都・郡中小学校の調査報告

- ・京都市学校歴史博物館企画展（学制150周年記念企画、郡中小学校創設150周年記念企画）と講演会に出席し、郡中小学校の歴史等を調査
- ・京都市内で明治2年に開校した番組小学校と、その周辺地域に明治4年から開校した郡中小学校との比較。行政と地域社会が連携し、教育を地域社会の公共的な営みとして官民一体で取り組もうとする教育の公共性の確立に向けた動きが見られる

●参考史料：『郡中小学校—京都市におけるもう一つの小学校150年』（企画展リーフレット京都市学校博物館2023年）

2. 大田堯における「教育は公共的事業」論の生成過程

- ①本郷町での地域教育計画の仕組みと実践の記録。「前進性」「民衆性」「科学性」を備えた、主体的な民衆による社会改造の一環としての教育の仕組み
 - ②地域教育計画のための民衆組織の創出。「教育懇談会」を組織
 - ③教育懇話会のもとの学習指導案の作成
 - ④本郷町地域教育計画の理論的背景—『近代教育リアリズム』：アメリカのプロGRESSIVISMの教育運動とコミュニティスクールの運動
 - ⑤地域教育計画の行き詰まり：民衆が主体的に獲得した自由のもとで実行されたものではなく、子どもたちを教育の主人公としていない
 - ⑥社会基底研究会と農村調査—社会科学としての教育学を目指す：地域と児童の生活実態調査をふまえた教育計画づくり
 - ⑦生活綴方との出会いと「生活台」の概念の継承：生活綴方の運動に取り組む中津川の教師たちとの出会い
 - ⑧民間教育史料研究会、子育ての習俗調査を通して広がる大田の公共論の新たな地平
 - ・福沢諭吉の「民間」の発想の検討と民間教育運動の遺産の継承
 - ・柳田国男と日本民俗学の成果を手がかりにした子育ての習俗研究と調査
- 参考史料：『近代教育とリアリズム』（大田堯・著 1949年 福村書店）
『地域教育計画書』（大田堯・著 1949年 福村書店）

『教育を改革するとはどういうことか』（大田堯/堀尾輝久・著 1985年 岩波書店）

『教育とは何か』（大田堯・著 1990年 岩波新書）

『教育をめぐる「参加」（協力関係）の研究』第1集（1982年 日本教育学会）

内容：（2）浅井研究員：「公教育のイノベーション：『共通世界』の概念を手がかりに」を
発表

1. 共通世界の教育

- ・ユネスコ報告書「私たちの未来をともに再創造する」（UNESCO2021）
- ・私たちの共通世界と共有する未来を形作るために、教育がどのような役割を果たすことが出来るか。「共通世界」の概念を手がかりに、新しい時代の公教育を探求する

2. コモン・ワールド

- ・「共通世界」概念を探求するバックグラウンドペーパー
- ・人類と地球の未来が危機に瀕している今日、その存続のために教育を再校し再構築する必要がある
- ・2050年以降の教育のあり方についての七つのビジョナリー宣言について
- ・「共通世界化」の教育—三つの概念を理論的基盤とする
- ・ラトゥールの「共通世界」
- ・Taylorの「自然文化集合」
- ・コモン・スクールとはなにか

3. コモン・グッドの概念

- ・イタリアのレッジョ・エミリア市の幼児教育の、政策（参加）と教育アプローチのヴィジョンにおける一貫性
 - ① アプローチ：「子どもたちの100の言葉」（ローリス・マラグッツイ・著 田辺敬子・訳）
 - ② 公教育としての幼児教育の成立—「市立」「学校」
 - ③ 教育的コミュニケーション

4. 市民としての子ども—未来に向けて

・次回研究会 5月26日（金）13：30～

・次々回研究会 6月16日（金）13：30～